



送信者: [redacted] / 中部電力

宛先 [redacted]

cc [redacted]

日付: 2008/03/17 20:42

件名 Re: 確認事項

原子力安全・保安院 名倉様

[redacted]でございます。
津波による水位低下側（引き波）の安全性への影響検討では、敷地地盤やポンプ据付高さ等は地盤隆起を考慮して比較しています。寄せ波では、隆起を考慮せずに比較していません。
津波の場合は、地震後20分後に発生することから保守的に安全側に評価しています。

たしかに同じ考え方に立てば、スロッシングの場合でも地盤を隆起させて、つまり水位低下させて評価することも考えられますが、その場合、固有周期は15秒よりも長くなり、応答スペクトルを見ていただければわかりますが、地震による揺れは急激に低下します。従って隆起を考慮して水位低下させることが必ずしも安全側になるとは言えません。
そのため、スロッシングの場合は、地盤の隆起は考慮せずにそのまま評価しています。

またスロッシングの場合は、地震と同時に発生するので地盤隆起の影響は受けにくいものと考えます。（ここは私の想像なので津波の担当に確認します。）

中部電力株式会社
発電本部 原子力部 長期保全グループ
〒461-8680
名古屋市東区東新町1番地
TEL: 052-951-8211（代表）
FAX: [redacted]
PHS: [redacted]
E-mail: [redacted]

-----作成者: [redacted]-----

宛先: [redacted]
送信者: [redacted]
日付: 2008/03/17 07:45PM
件名: 確認事項

[redacted]様

お世話になっております。
原子力安全・保安院 耐震室 名倉です。

津波による水位については、地盤隆起量こみこみで評価し、水位低下側の安全性への影響検討では、敷地地盤やポンプ据付高さ等は地盤隆起を考慮しない数値で比較しています。（すなわち、安全側の評価）

スロッシングの場合は、沈砂池の水面とポンプ双方が地盤の隆起に伴い、双方とも隆起する前提で検討を実施しているようですが。

両評価の整合性は取らなくていいのでしょうか。